

子どもの姿から授業を創る！

原田版

事後研のススメ

2026

事後研は、授業を「評価」するのではなく、子どもの具体的な“姿”をベースに全員で授業を一緒につくる場にしましょう！

あっ!

子どもを「主語」にして語る



「〇〇さんがこう言った」と個別の発言やしぐさに注目し、一人の子を具体的にイメージして話し合います。

「思考が動いた瞬間」を捉える



子どものつぶやきや表情、手が止まった瞬間など、思考が動いた事実を多角的に共有します。

子どもの事実を「固有名詞」で語り合い、授業を共創する。

評価者ではなく「共創者」へ




評価者



共創者

評価する立場ではなく、教科を越えて大切なことを全員で創り上げていく一員として参加します。

対話を保障する議論のフロー



授業者からの提示→グループワーク→全体議の全員が発言できる機会を確保します。

学校研究の文脈と結びつける



今日の取り組みが学校の研究テーマや前回の研究授業とどう関連しているか、現在地を確認します。

